

■会員 Now

株式会社みずほコーポレート銀行と風力発電

～より良い未来をつくる金融であるために～

プロジェクトファイナンス営業第二部 澤柳 壽宏

Tel: 03-5222-5031

はじめに

我が国の風力発電の導入はこの 10 年間で急速に進み 2006 年 3 月末現在、設備容量は 1,078MW に達した。2001 年 6 月には 2010 年の風力発電の導入目標がそれまでの目標比 10 倍の 3,000MW に引き上げられ、また 2005 年 4 月からは電気事業者等による新エネルギー等の利用に関する特別措置法（通称、RPS 法）が施行されるなど、今後一層の導入促進が期待されることである。しかしながら、同時に、風力発電業界を取り巻く環境の変化は著しく、我が金融業界においても然りであり、日々是勉強といったところだろうか。みずほは風力発電の建設をはじめ、環境に配慮したさまざまなプロジェクトを金融のしくみでサポートしているが、プロジェクトファイナンスという金融手法を軸に活動している弊部の取り組み状況を紹介する。

風の研究からはじめた

弊部が風力発電事業に着目したのは 1999 年。太陽光、太陽熱、バイオマスなど、新エネルギーには多くの種類があるが、風力発電は欧米での実績も多く、規模がある程度見込め、商業化においても成功しているケースが多く、今後の需要にも期待が持てたことから、風力発電プロジェクトへのファイナンスを研究し始めた。まず、「風」そのものを研究することから始めた。風が起こる仕組み、日本各地の気象状況、風力・風向はどのくらい安定性があるのかなどを約 1 年間かけて、徹底的に調査した。その結果、風は決して気ままに吹くのではなく、かなり安定的なエネルギー源になることが分かった。

多彩なリスクを分析

風力発電事業を展開するとなると、想定した通りに風が吹かない風量変動リスク、自然災害も含め風車の稼働率が低下するリスク、景観・

騒音・用地・住民問題などで事業の継続に支障が出るリスクなど多彩なリスクに対する対策を検討する必要がある。とりわけ見込み発電量の算出は重要であり、そこには風力発電機設置候補地に通常 1 年間、ポールを立てて風況データを取得し、過去長期にわたるデータなども参照して平年値を割り出していくなど、手間と時間がかかる作業が続く。そうして取得したデータを、詳細な地理データや設置高度なども勘案しながら発電量をシミュレートするソフトで計算し、そうした結果から事業計画が策定される。これらを幾重にも積み重ねることでファイナンスへとつながる。また、事業計画立案における金融調達手法やリスクに関するアドバイスなどを事業者の立場にたって行う、ファイナンスのコンサルティング業務も実施している。

これまでの実績

2001 年度から昨年度までの国内風力発電プロジェクトファイナンスアレンジ実績は、北海道天塩郡幌延町、千葉県銚子市、青森県上北郡六ヶ所村、愛媛県西宇和郡伊方町、茨城県常陸太田市里美牧場、長崎県平戸市大島村など計 7 件、フィナンシャルアドバイザーも 14 件まで積みあがった。今年度も多数のご相談を頂戴し、現在複数の案件のファイナンスをアレンジ中である。

最後に

RPS 別売事業、蓄電池枠や解列枠における事業など、高度なビジネスモデルが出始めているが、風力発電分野におけるリーディングバンクとして、みずほはバリエーションに富んだファイナンスモデルの構築を目指していく。～より良い未来をつくる金融であるために～みずほフィナンシャルグループ